

乳幼児健診 (3歳半までのお子さん対象)

子ども通信に
毎月掲載

町では、お子さんの健やかな成長と、保護者の皆さんが地域で育児の悩みなどの不安を取り除き安心して育児をするためのお手伝いを行っています。赤ちゃんのこと、ご自身が困っていることなどお気軽にお尋ねください。



乳幼児健診をご利用ください

健診の対象月齢(年齢)に応じた運動・言語などの発達、発育状況を確認するため保健センターでは乳幼児健診を実施しています。健康状態をはじめ育児の悩み、食事の悩みなど気になっていることを保健師や管理栄養士などに相談できます。詳細はP25の子ども通信をご覧ください。

※健診対象月を2か月経過しても受診されない場合、保健師が自宅に伺い、お子さんの発育発達や生活状況などを確認しています。

8/1から
受付時間変更

8/1(月)から乳幼児健診の受付開始時間が13:00から13:15に変更となりますので、ご注意ください。

受付時間 **13:15 ~ 13:40**

はじめて子育て講座「ほっとサークル」

定員20人
参加無料

～ラベンダーコース～ 平成28年4～6月生まれの子どもと家族が対象

「こんな悩みは私だけ?」「近所でお友だちが欲しいな」というママ。初めての子育ては不安や悩みが尽きません。2日目はベビーマッサージ。赤ちゃんに触れ合いながら、他のママと子育てについて一緒に考えませんか。

日時	場所	内容	持ち物
① 9/8(木) 10:00～11:30	藤久保公民館 和室	仲間づくり、子育てQ&A、おもちゃ製作	母子健康手帳、バスタオル
② 9/12(月) 10:00～11:30		ベビーマッサージ	母子健康手帳、バスタオル、お子さんに必要なもの
③ 9/28(木) 10:00～11:30	保健センター	手作りおやつでティータイム ～プレママと先輩ママの交流～	母子健康手帳、バスタオル、エプロン、三角巾、手拭タオル

■ 申込方法
電話・FAX・メールで次の内容をお伝えください。
●件名「子育て講座申込み」 ●お母さんのお名前 ●住所 ●連絡先 ●お子さんのお名前 ●お子さんの生年月日 ●第何子のお子さんか

休日・夜間・小児時間外診療所

施設名	休日急患診療所	第二休日診療所	小児時間外救急診療所	イムス富士見総合病院(入院等が必要な救急小児)
所在地	ふじみ野市駒林元町 3-1-20	富士見市鶴馬 3351-2	ふじみ野市駒林元町 3-1-20	富士見市鶴馬 1967-1
電話番号	049-264-9592	049-252-4050	049-264-9592	049-251-3060
診療日	日曜・祝日・年末年始	日曜・祝日	月～土曜	月・木曜
診療時間	9:00～16:00 20:00～22:00	9:00～16:00	20:00～22:00	月・木曜が平日 18:00～翌朝 8:00 まで 月・木曜が祝日 8:00～翌朝 8:00 まで

下記のイベント会場は全て中央図書館

中高年の読書会 -ビブリオバトル方式-

8月5日(金) 14:00～16:00 (受付13:40～)
▶内容 7人がおすすめの本を1人5分以内で紹介し、聞き手とともに意見交換。聞くだけの参加も歓迎。▶対象・定員 中高年の人20人
▶申込方法 中央図書館で受付中。電話可。▶共催 みよし読書愛好会、図書館

夏のおはなし会 親子で楽しめる昔話&紙芝居

8月28日(日)
協力:おはなしサークルかにかにこそこそ
5歳～2年生の部
10:10～10:50 定員50人
3年生～おとなの部
11:10～12:00 定員50人
▶申込方法 中央図書館で受付中。電話可。



大人のための朗読と音楽の会 「三人の朗読」と洋・邦楽ポップス

9月11日(日) 14:00～16:00 (受付13:45～)
▶対象 大人40人
▶演奏 PLO(ピアノ & エレクトーン、ギター、ボーカル)
▶朗読 七月の朗読会 ▶申込方法 中央図書館で受付中(電話可)

図書館だより



毎月23日は「よみ愛・読書の日」

三芳町図書館

中央図書館 ☎258-6464
開館時間/10:00～19:00(土・日18:00まで)
休館日/毎週月曜日、月末、土・日除く祝日
竹間沢分館 ☎274-1722
開館時間/11:00～18:00
休館日/毎週月曜日、月末、土・日除く祝日
配本所(中央公民館内) ☎258-0050
開館時間/9:00～21:00
休館日/原則第1月曜日(中央公民館休館日)

「ブラジル、にまつわる本別置紹介中」



一般書
ナーダという名の少女
角野栄子 著
KADOKAWA 2014年2月発行
請求記号:913.6 カドノ

日本人の父を持つアリコは、リオ・デ・ジャネイロの対岸、ニテロイの小さな映画館で、同じ年の赤毛の少女ナーダと出会う。「永遠に未来の国」ブラジルを舞台に、著者の経験を元に書かれた、ちょっと不思議な物語。

※子ども向けのイベントは、P24にも掲載しています。

みよし歴史 探訪 いぼとり地蔵

上富の六間道を、上富小学校入口手押信号から南へ30メートル程進んだ西側の歩道脇に、小さな雨よけの屋根がかけられた地蔵が立っている。この地蔵は別名「いぼとり地蔵」とも呼ばれ、特に疣を治すに利益がある地蔵である。地元の人々の話では、祈るときは泥団子をお供えし、治つたらお礼として本物(の団子)をお供えするのだという。地蔵の左の側面には「明治〇〇年十二月〇〇日〇〇施主中嶋三代吉(〇は判別できない部分)の文字が彫られている。造立年は明治年間(詳細は定かでないが、氏名については、三代吉なる人物が、近隣で行き倒れた方への供養として造立したという話が町史に見える。

江戸時代、六地蔵をはじめとする地蔵信仰が、民衆に身近なものになり、地蔵に様々な利益を求めるようになっていった。祈りの目的に応じた名で呼ばれた、「いぼとり地蔵」と同様の「とげぬき地蔵」や「子育て地蔵」の名を、耳にした方もいるだろう。このような地蔵は、建てられた後に、成就した祈りの評判によって、それぞれの名で呼ばれるようになっていった。いぼとり地蔵は、名前のとおり、日本各地で疣を治す願いや祈りの対象とされ、関係する説話も各地に見ることが出来る。医学が未発達だった時代、当時の人々は、疣の発症原因と治療方法が解明されていなかったため、地蔵に救いを求めていたということであるが、現在でも、疣ができた際の地蔵参りの習慣は、各地に残っている。祈りの方法は、地域によって異なり、「お供えしてある塩を疣に塗ると治る」、「お供えしてある石で疣をこすると治る」など様々である。

本文の執筆に際し、上富のいぼとり地蔵を訪れた折には、泥団子や団子のお供え物は確認できなかったが、今でも花や線香、お供え物が手向けられ、信仰が続いている様子が伺えた。疣治療の際には、医療機関での受診に併せて、いぼとり地蔵を訪れてみてはいかがだろうか。

(写真) いぼとり地蔵